

平成22年3月28日

衆議院議員 古賀一成 様

有明海漁民・市民ネットワーク
福岡海苔漁民有志

検討委員会への要望書

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

先般、国営諫早湾干拓事業の開門問題について政府・与党の方針をまとめる検討委員会が設置されましたことは、我々有明海の漁業者にとりまして、開門への期待を大きく膨らませることとなりました。また、政権交代前から一貫して諫早問題に取り組んで来られ、有明海再生にずっとご尽力頂いておりました古賀先生が、福岡県選出の議員として、貴委員会に入られたことは、我々と致しましても大変心強い限りです。

しかし、麻生福岡県知事は3月9日の臨時記者会見で、「漁場の環境整備の結果、海苔の養殖はずっと安定しており、ここ1、2年はアサリも回復傾向である。有明海には新しい海域の環境均衡が形成されつつある」と述べられました。これは実際に海に出て仕事をしている我々の感じていることと大きくかけ離れた内容の発言であり、この内容が福岡県の有明海沿岸の漁師全体の認識であると、一般の方々や貴委員会の委員の方々に理解されては大変残念でなりません。また、「開門調査の前のアセスメントを経ずして、いきなり開門調査が実施されては、有明海の漁業や漁場環境に予想されない事態が起り得ます」とも述べられ、一刻も早い開門調査の実施を望む我々漁業者と、またしても反対の、しかも開門調査の実施にブレーキをかけるような発言に憤りすら感じます。

海苔養殖は、平成9年度の閉め切り以降安定しておらず、漁期を延ばすなどさまざまな努力の結果、なんとか持ち堪えてまいりましたが、今季に至っては、プランクトンの発生する条件ではないのにも関わらず、1月上旬からプランクトンの発生による栄養塩不足に悩まされ、その後、ダムの放流および網の一部撤去など、あらゆる手段を試みましたが、海況は回復せず、今季、福岡全体の海苔の水揚げは約7割程度にしかならないものと思われまます。アサリに関しましては、一時的に回復傾向の年も見られましたが、県知事の言われるここ1、2年に関しましては、回復傾向というより、むしろ後退傾向であり、今漁期全く捕れていないのが現状です。

開門を一刻も早く実施し、排水門の閉め切り以前の有明海の環境に近い状態に一日も早く戻すことが、真の有明海の再生、そして漁業の回復に繋がることと思われまます。貴委員会には、一刻も早い開門の決断、実施を強くお願い申し上げます。

以上